

# 過去を知り、 今を読み解き、 次世代につなげます



3月1日に市議会3月定例会議で田中市長が表明した、令和4年度の市政運営の基本的な考え方と主要施策の内容を抜粋して紹介します。

## 市政運営の考え方

私はこれまで、市民の皆さんの信頼と期待に応えるべく、「全ては安来市民のために」という信念のもと、市政運営に全力を注いできました。

就任当初から、市民の皆さんに安来市の現状について情報提供ができていないと痛感していました。そのため、まちづくり座談会など、皆さんと顔を向き合わせて話をする場を数多く設けました。「過去に学び」「現状を捉え」「未来につなげる」という市政運営の考え方を説明し、市民の皆さんからの貴重な意見に耳を傾けてきました。

また、どじよっこテレビの広報番組への出演、定例記者会見を開いたりするなど、自ら市政情報の発信に努めました。さらに、「市長ミーティング」などで、市役所の職員と対話を重ね、積極的に意見交換することで相互理解を深めるとともに、風通しの良い組織風土の醸成にも取り組んできました。

このような取り組みを重ねた結果、市民の皆さんからは安来市の課題を自分たちの課題と捉えていただき、さまざまな場で積極的に課題解決のためのご提案をいただきました。加えて、市の若手職員からは斬新な事業

小学校・中学校ではICT（情報通信技術）を通じて、これまで1人1台端末や大型掲示装置の設置、校内Wi-Fi環境の整備などを行いました。今後もデジタル教材のさらなる活用により、教育環境の充実を図ります（写真は安田小学校）。



提案の発表があるなど、私が目指す「オールやすぎ」による市政運営に取り組む気運の高まりを実感しています。

安来市で生まれ育った若者が、安来市に住み続けようと思いたくなるまちづくりを進めるためには、積極的にトップセールスをする必要があります。併せて、議員を始めとする市民の皆さんのご協力や、民間企業や学校など各種団体と連携して、協働で取り組むことが必要不可欠なものと考えています。

「オールやすぎ」による「次の世代につなげる安来市づくり」が、私に与えられた大きな使命です。「課題を先送りしない」という強い信念を持って、引き続きスピード感を持って市政運営に取り組んでいきます。

### 目の前にある課題への対応

#### 新型コロナウイルス感染症対応

3回目のワクチン接種は、当初の予定を早め、昨年12月から順次、医療従事者や高齢者施設等の従事者・利用者の皆さんへの接種を進めています。保育や学校施設従事者の皆さん、一般高齢者の皆さんには2回目の接種から6カ月後に、また18歳以上64歳以下の皆さんにも、6カ月経過後のできるだけ早い時期

に接種券を順次お送りします。引き続き、感染症対策を講じるとともに、アフターコロナを見据えた市内の経済活性化に向けた事業にも積極的に取り組んでいきます。

#### デジタル化の推進

急速に進展するデジタル化社会の波に乗り遅れることのないよう、国の動向を注視しながら、早急にデジタル化の推進を図っていく考えです。令和4年度は、デジタル化を推進する専属部署を新たに設け、「自治体DX推進計画」を策定します。

また、「IT City Yaagi 構想」の具現化を進めるため、総合案内への人型ロボット配置や窓口業務でタブレット端末の活用も進めます。

その構想を進める中で、ソフト産業の誘致や起業を後押しし、就業や就職の選択肢を広げることにより定住促進につなげ、持続可能なまちづくりを目指していきます。

#### 小中学校適正化と地域づくり

現在市内の小中学校それぞれで、教職員、保護者、地域の皆さんの支援によって特色ある教育活動が展開されています。令和4年度は、小中学校適正

配置基本計画の策定に向けた「安来市小中学校適正配置審議会」を立ち上げ、小中学校適正配置基本方針を踏まえ、具体的な方向性を示していきます。併せて、特色ある地域づくりの構築に向け、「(仮称)交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会」を立ち上げ、市の支援体制や交流センターの運営方針等を検討していきます。

#### 行財政改革

平成28年に策定した公共施設等総合管理計画は、5年が経過したため、このたび見直しを行いました。今後はこの計画に基づき行財政改革を進めます。

夢ランドしらさぎや介護予防拠点施設ふれあいプラザは、施設の運営を含めさまざまな視点から活用策を検討します。

#### 令和4年度の予算編成

「次の世代につなげる安来市づくり」を目指し、第2次安来市総合計画の実現に向けた施策を重点的かつ着実に推進します。一方で、中期財政計画を踏まえ、費用対効果、事業規模、実施時期や終期の設定等を検証し、既存事業においても見直しを図り、将来必要な施策を中心に予算措置を行いました。



◀ 広瀬庁舎、広瀬中央交流センター、養護老人ホーム鴨来荘は、令和3年度に策定した基本構想をもとに基本計画を策定します。

▶ 山陰の自治体で初となる統一QRコード決済サービスを導入。今後もICT（情報通信技術）を活用した取り組みを強化します。





◀こけないからだ体操の様子。介護保険の介護予防事業や国民健康保険の保健事業を一体的に取り組みます。

▶アルテピアは開館から5周年を迎えます。引き続き、文化芸術に親しむ機会をつくり、市民の心豊かな生活の醸成を図ります。

▼令和4年4月からすべての小中学校で給食センターから給食を提供します。



## 令和4年度の主な施策

### 保健・医療・福祉

●入院を希望しない市民が安心して在宅療養ができるように取り組みます。医療機関への移動に時間がかかる条件不利地域への訪問診療を行う病院・診療所を支援し、在宅療養生活の質の向上を図ります。

●安来市立病院の新たな改革プランを策定し、継続して病院改革を進めていきます。地域医療の確保に向けては、地域医療構想や新たなガイドラインなどを踏まえ、医療の機能分化や連携強化など、今後の安来圏域の医療提供体制のあり方について、市の地域医療連携等に関する基本構想を策定します。

●令和3年3月に策定した「第8期安来市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、市内の法人が新設する地域密着型サービス事業所の整備費の一部を助成。地域に根付いた介護施設の運営の継続と高齢者福祉の向上を図ります。

### 子育て・教育・文化

●令和3年度から高校魅力化推進員を任用し、コンソーシアムの運営および魅力化の推進を

図っています。引き続き、高校と地域との関わりを深めることで教育の質や地域力の向上を目指し、市内外からの入学生の増加と地域の将来を担う人材の育成を図ります。併せて、「しまね留学」により県外から入学する生徒や、部活動のため市外から入学する生徒の住まいと生活の支援に取り組みます。

●島根県立大学と安来市、安来商工会議所、安来市商工会の4者で、地域の課題解決や人材育成などを目的とする包括連携協定を締結しました。これにより、大学と連携して産業振興やまちづくりなどに取り組みます。

### 防災・防犯

●令和3年7月の梅雨前線による大雨、また、8月の台風9号による暴風雨と秋雨前線による大雨により、市内に多数の被害が発生しました。この大雨で、吉田川の増水により周辺の水路があふれ、浸水被害が発生した東飯島地区などの浸水対策に取り組みます。

●多様化する災害に安全かつ迅速に対応し、安全・安心な市民生活を確保するため、計画的に防火水槽の設置や消防団用車両

を整備します。また、消防団員の処遇改善に向けて検討することとし、消防力の充実強化を進めます。

●消防本部の消防指令システムは、平成27年2月から運用を開始し、7年間常に稼働しています。一部装置とソフトウェアが保守期限を迎えるため更新し、各機器を適正に維持し安定稼働させることにより、市民サービスの維持・向上を図ります。

### 産業・観光・雇用

●転出過多による人口の減少を食い止め、定住を進めていくために、産業振興は不可欠です。安来市の基幹産業である製造業はもちろんのこと、地元学生やUIターン者等に対する新たな雇用を創出します。ソフト産業などさまざまな業種の立地に対する支援や、過疎法で講じられている特別措置を有効に活用するなどして、積極的にトップセールスを行いながら、企業誘致、雇用拡大を図ります。

●農業振興地域整備計画は、令和3年度に実施した基礎調査の結果をもとに、総合的に見直し、都市計画マスタープラン等の都市計画の土地利用調整との調和を図りながら農用地区域を

設定し、将来に渡って面的な農地の保全を進めます。

### 都市基盤・生活

●国道9号の県境部で慢性的に発生している渋滞の緩和対策は、長年の課題となっており、県境部の道路交通の現状と課題について整理し、将来交通量の推計を行ったうえで最適な道路整備の方針を検討します。

●市道安来港飯島線は、幅員が狭く歩道も未整備な箇所があるため、児童生徒の通学時の安全を確保する必要があります。島根県が進めている安来木次線の整備に併せ、両側歩道を有する路線として整備を進めていきます。

●地域住民の移動の円滑化と持続可能な公共交通の実現を図ることを目的として、地域公共交通計画を令和3年度に策定。この計画に基づき、バス路線の見直し、地域内輸送の推進、実証実験を通じた代替交通の検討などをを行い、市民がいきいきと安心して暮らせる公共交通を目指します。

●公営住宅等長寿命化計画に基づき、建築から50年が経過した大栄団地と末広団地の建替えに向けた現地調査を開始します。



自然・環境保全

●環境負荷の少ない持続可能な地域社会を次世代につなぐために、脱炭素社会を目指さなければなりません。温暖化対策を推進し、「2050年に二酸化炭素実質排出量ゼロ」を長期的な目標に掲げて取り組みます。

参画・協働・行財政

●「小さな拠点づくりモデル地区推進事業」は、令和2年度から比田地域が島根県のモデル地区に選定。「地域交通支援」「高齢者生活支援」「自主防災機能強化支援」を軸に住民主体で取り組んでいます。

比田いきいき交流館の増築や、冬期一時居住施設として使用するため、湯田山荘を改修します。また、比田地域の推進協議会への活動支援など、ハード・ソフト両面から支援を進めます。比田地域の取り組みが先進的な事例となり、他の地域に波及することが期待できます。今後も活力ある集落・地域づくりに向けて市民自らが課題解決のために取り組む地域を支援していきます。

●「安来市空家等対策計画」の改定に合わせ、市内の空き家の

現状分析と課題の把握を行います。併せて、中山間地の空き家対策に特化した「中山間地域空き家活用モデル事業」に取り組む組織への助成や、空き家バンクに登録された住宅の改修費用の一部を助成します。これにより、空き家の利活用および定住促進につなげていきます。

●市の定住サポートセンターの定住対策業務の一部を安来市特定地域づくり事業協同組合に委託し、センターの名称を「やすぎ暮らしサポートセンター」に改めます。新たな連携体制で定住施策の強化を図ります。

◇◇◇◇◇  
令和4年度の予算概要は、次号でお知らせします。

令和4年度施政方針の全文は、市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。トップページ> 市政>市長の部屋>施政方針：所信表明

問い合わせ

政策企画課

☎23-3060



- ①観光需要の取り込みを目的としたアフターコロナ対策を進めていきます（写真は安来ぶらりチャリ）。②観光交流プラザで活動している安来市文化協会を和鋼博物館内に移転します。③「やすぎ和牛」のブランド化を推進するため、全国和牛能力共進会への候補牛の出品対策を支援します。④「小さな拠点づくりモデル地区推進事業」の取り組みとして、比田地域で移動販売事業を開始します。⑤月山富田城跡の整備は令和3年度に完了。将来的な史跡の追加指定に向け、引き続き周辺の山々に築かれた陣城跡の地形測量調査を実施します。⑥地元への就職と定住を促進します（写真は情報科学高校の企業見学ツアー）。⑦市民団体の活動を支援します（写真はやすぎランニングフェスティバル）。

